

校長室より

暗唱だより
令和6年9月
第三吾孺小学校長
川中子 登志雄



高田敏子さん

もうすぐ夏休みが終わって、また学校が始まります。皆さん、お元気ですか？ 暑すぎて、外で遊ぶことはできなかったかもしれませんが、楽しい夏休みを過ごすことができましたか？ 学校が始まって友だちに会えるのが楽しみです。9月からまた「自立・共生・健康」を目指して頑張りましょう。

さて、9月の暗唱課題は…

たかだ としこ わす

高田敏子「忘れもの」

日本の学校で一番長い休みでもある夏休みです。楽しい夏休みは、1ヶ月以上もあるのに、終わってしまうとあっという間に感じるのはなぜなのでしょう。私が子どもの頃は、夏休みにたくさんの宿題が出て、終わらせるのがとても大変でした。夏休みの終わりに宿題が終わらなくて泣きべそをかいている友だちもいました。それでも、自由な時間を過ごすことのできる長いお休みは、子どもの成長にとって重要なものですね。「忘れもの」は、そんな、夏休みが終わってしまった子どもの気持ちを書いた詩です。教科書にも取り上げられているものだそうです。

この詩を書いた高田敏子さんの紹介を探してみました。

高田敏子（たかだ としこ）1914-1989 昭和時代後期の詩人。

大正3年9月16日生まれ。結婚して満州（中国東北部）にわたり昭和21年帰国。「現代詩研究」「日本未来派」同人となる。35年から「朝日新聞」家庭欄に短詩を連載し「月曜日の詩集」にまとめて刊行、おかあさんの詩として好評をえた。40年より「野火」を主宰。詩集はほかに「藤」（42年室生犀星賞）など。平成元年5月28日死去。74歳。東京出身。跡見高女卒。

（「デジタル版 日本人名大辞典+Plus」より）

「まだ夏休みが続けばいいのに」と思う人は、ぜひ感情をこめてこの詩を暗唱しに来てください。



9、10月の英語の暗唱は「エーデルワイス」

映画『サウンド・オブ・ミュージック』の中で歌われる「ドレミ」、「私のお気に入り」などとならんで、誰もが聞いたことのある有名な歌です。

エーデルワイスは、アルプスの山の上に咲く、5ミリほどの小さな白い花です。スイスの国花にもなっています。映画の中では、音楽からはなれていたトラップさんが、子供たちに歌って聞かせるシーン（上写真）で出てきます。